

今月のメッセージ (2014年5月)

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

富山ガラス工房

「うちはガラス工房の先生が作って下さる酒器を使っているんですよ」。富山の銘酒が入ったデカンターを傾けながら、女将さんが教えてくれました。

富山はガラス作りを大切にしている県です。富山市はガラス作家の育成に熱心に取り組んでいますし、高岡市や砺波市には「オンリーワン」と呼べるような高い技術を持った加工ガラスメーカーが存在します。

明治期から薬瓶作りが盛んであったことが背景のようですが、ガラス作家の育成については市民の熱意による面も大きいようです。

平成3年、富山市は全国初の公立のガラス作家育成校である「富山ガラス造形研究所」を設立しました。同校には全国各地から集まった40名の学生がプロを目指して修業しています。平成6年には、学生・卒業生の作品作りの場として、「富山ガラス工房」が造形研究所に併設する形で設立されました。

現在、富山市は「ガラスの街とやま」作りを進めています。造形研究所とガラス工房が建っている一画は「ガラスの里」として整備されており、市内各所の公営施設や城址公園の散歩道には「工房作家」の作品が展示され「ストリートミュージアム」として整備されています。

来年3月の北陸新幹線開業に向けた取り組みにも積極的です。富山駅の新幹線改札口や路面電車の乗り入れホームには様々な色のガラスのパネルが設置されますし、来年8月には市内中心部に「ガラス美術館」がオープンします。

ガラス工房には「工房作家」の作品を販売するコーナーもあります。花瓶、徳利、ぐいのみ、箸置き...、様々な意匠と色彩が施された作品は魅力的で、思わず欲しくなってしまうものばかりです。

一般の方向けの体験コーナーもあります。私も、係の方(「工房作家」のタマゴと思われる)の指導を受けてぐいのみを作りました。1,250度に熱せられたガラスに空気を吹き込んだり、塗料を付けたり、濡れた雑巾で形を整えたり...。1週間後に届いた自分の作品で飲む富山の新酒は格別の味でした。

多くの方が「とやまのガラス」に魅力を感じて来県して下さることを私も期待しています。

以 上